

宮城同友会 50周年に向けて仲間の輪を拡げよう! vol.10

Welcome 同友会 1/17 (水) 報告者: (有)北の一チェーン 小関宏氏 (青葉支部)

参加者: 新会員 2 名、ゲスト 1 名 含む計 12 名

自身が北の一チェーンに入社後、創業者である父が入会していた同友会活動にも参加するようになった小関氏。コロナ禍には店舗の撤退などを早急に判断し、売上にも大きな影響がありましたが、今年からようやく 2019 年の水準に戻りつつあるそうです。厳しい時期には会社の存続を考えましたが、自分自身の人生と社員のことを考えて継続する決断をしました。小関氏は現在青葉支部長を務められていますが、支部で起こっていることと自社で起こっていることがリンクしていると感じるそうです。問題に目を背けず向き合うこと、周りの人と組織的に物事を進めていくことなどを日々模索しながら、取り組んでいる経営実践報告でした。

1/24 (水) 報告者: (株)美匠工建 代表取締役 小野寺幹雄氏 (黒川富谷支部)

参加者: 新会員 1 名、ゲスト 3 名含む計 12 名

「同友会は日本の企業家たちの大凶鑑だと私は思っています」という振りから始まった小野寺氏の報告。前職はヘアスタイリストとして東京で仕事をされていましたが、自分が継がなければ、社員さんはどうなっていくのかを考えた末、家業を継ぐことを決意。シェアを奪いあい、数をこなすことが正義で完全な下請け体質で、同友会活動に参加することも社員さんの不安感に繋がっていたそうです。先輩会員から問いかけられたのは「経営して楽しい?」という言葉でした。社員を幸せにしたいけど、方法が分からず、藁にも縋る思いで経営指針を創る会を受講しました。「経営は社員と共につくる物語」、主演は「社員と私」同友会の様々な学びから前を向いて経営できるようになったという力強い報告でした。

中同協第 56 回定時総会 in 宮城実行委員会 presents

成長と変革特別学習会 COLUMN

「社員と一緒に育つ会社づくり」
～遠回りに見えて実は近道～

岡山トヨタ自動車(株) 代表取締役社長

梶谷 俊介氏 (中同協社員共育委員長)

事業概要: 各種ケータリングサービス、飲食店、ワインショップ、産直市場、地域活性化事業



第 9 回「成長と変革 特別学習会」は、岡山県で自動車の販売修理などを中心とした事業を行い、中同協社員共育委員長でもある、岡山トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長 梶谷俊介氏に「社員共育」をテーマとして報告をいただきました。岡山トヨタ自動車株式会社は1945(昭和20年)創業で、梶谷氏は 5 代目の社長です。昭和 39 年、先々代の社長が「会社は仕事を通じて人々を磨く人間形成の場と考える」などの教育方針を策定し、その中には、会社が期待する社員像として、1. 仕事に生きる人、2. 正義と礼節を失わず、自律を守る人、3. 仕事と共に私生活も充実させる人、とも記されており、当時から社員の私生活と仕事の両立を目指していたそうです。

現在の岡山トヨタ自動車株式会社の社員教育も、「命について考える」「車を売るより、地域課題をどう解決するか考える」「仕事とよりよく生きる環境を考える」など、人として生きることを基礎とした社員教育を行っています。また、岡山同友会の社員共育大学や幹部社員大学などに積極的に参加し、他者の経営者や社員と共に学び合う「共育」の機会も

つくっています。

同友会の社員教育の根幹については、同友会理念の「自主・民主・連帯の精神」を深く追求し、行動に反映させること、それが「人間尊重の経営」であり、具体的にどう実践していくかが書き表されているのが労使見解(人を生かす経営～中小企業における労使関係の見解～)だとおっしゃっています。

これからの中小企業家に求められることとして、より良い地域は誰がつくるのか? 地域に対する責任を自覚しているか? という問題提起がありました。私たち経営者も社員も生存基盤は地域に支えられています。ある意味では、地域での役割は経営者より社員のほうが大きな役割を担っているかもしれません。企業理念や社員教育で培った価値観や人間性を経営者や社員が自らの「仕事」「くらし」へ還元していく、そんな企業が増えていくことで、より良い地域、よりよい社会をつくっていけるのではないのでしょうか。

[寄稿: 座長 高澤忠洪氏]